



金沢国際交流ラウンジニュース

No. 65
2023年(令和5年)4月20日発行

発行 金沢国際交流ラウンジ
〒236-0021 横浜市金沢区泥亀 2-9-1 金沢区総合庁舎2階
TEL:045-786-0531,0534 / FAX:045-786-0532
Email : klounge@shore.ocn.ne.jp
URL <http://www.kanazawalounge.org/>



きょうしつ かもめ教室 みんなで発表会

かもめ教室・みんなで発表会が3月18日(土曜日)に開かれました。今回が第8回目です。かもめ教室には世界20カ国につながる子どもたちが通っています。37人の子どもたちが発表してくれました。来日間もない子どもたちは、たどたどしくとも、朗読を最後まで頑張ってくれました。3~4年生になると身近な体験をもとに自分自身の文章で作文をし、楽しかったことや趣味を話し、またクイズで会場の人たちにも参加してもらいました。



小学高学年の子どもたちは、さらに視野を拡げ、自分にゆかりのある国(ナイジェリア、ネパール、ペルーなど)を紹介してくれました。中学生は、かもめ教室の思い出や将来の夢を語っていました。今はまだ自力で飛べないカモメたちを見守り、やがて飛び立って行くまでの数年間を、私たちボランティアも陰ながら支える一翼となればとの思いを新たにしました。

かもめ教室は火曜、木曜、金曜、土曜と4つの教室があります。また学校入り込み支援として、来日したばかりの子どもたちの学校の教室に入り母語を使って支援しています。

くみん てんじ 区民ギャラリー展示

3月の区民ギャラリー展で、金沢国際交流ラウンジをパネルで紹介しました。今年3年ぶりに

ラウンジフェスティバルがおこなわれ、参加した皆様や子どもたちの元気な様子も展示しました。



ちいき 地域でラウンジを紹介

2月16日、金沢八景ロータリークラブ定例会後の卓話で、金沢区の外国人支援のことを話す機会を得ました。

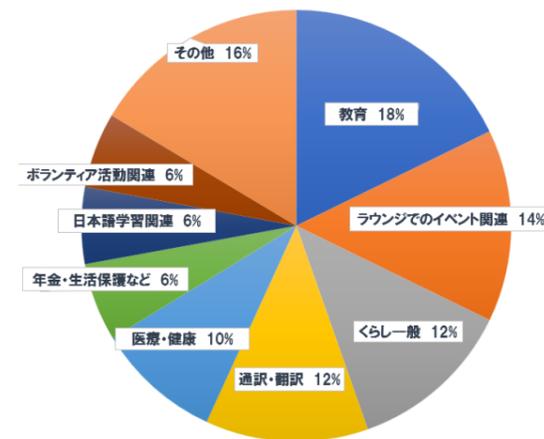
NPO法人となり、活動も地域にもっとアピールしていく必要を感じました。また賛同する方を少しでも増やしたいです。



まどぐち そうだん ラウンジ窓口の相談

そうだん 相談の実際

2022年度内容別相談件数比率



「窓口部では金沢区に居住する外国人に対して多言語で支援や相談対応をしています。2022年度の取扱件数は2,000件、教育関係が18%で最多でした。続いてイベント関係が14%、くらし一般(区役所窓口での手続き支援、マイナンバー関連の支援など)が12%、通訳・翻訳が12%、医療・健康(病院情報の提供、医療費/健康保険の問い合わせ対応、コロナ予防接種の予約手伝いなど)が10%でした。」

[多言語で相談を受けています]

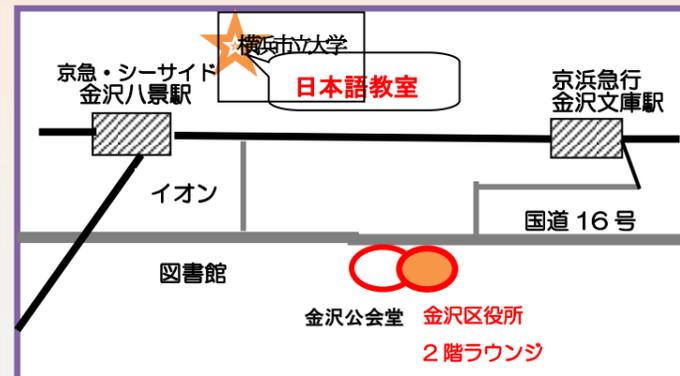
月曜日から土曜日：英語
水曜午後：中国語
木曜午後：スペイン語

★ラウンジ窓口のご案内★

《開館時間》月・火・水・木・金・土 9:00~17:00

日、祝日、年末年始は休館

〒236-0021 横浜市金沢区泥亀 2-9-1
金沢区役所 2階



☎045-786-0531・786-0534 Fax 045-786-0532

➤多言語で相談に応じます。

一月曜日~土曜日 9:00-17:00 英語

Monday thru Saturday, 9:00-17:00: English available

一木曜日 13:00~17:00 スペイン語

Los jueves por la tarde(13:00~17:00) en Español

一水曜日 9:00~13:00 中国語

星期三 9:00~13:00 中文

➤ [日本語教室] 現在変則時間です。お問い合わせください。

場所：横浜市立大学 八景キャンパス 交流室1,2

日曜日 火曜日 木曜日 土曜日 10:00-11:30

➤ [かもめ教室]

火曜日 16:00-18:45 オフィスかなざわ

木曜日 16:15-18:25 ルンビニー つながりの庭

金曜日 14:30-16:30 並木北コミュニティハウス

土曜日 9:10-12:30 ルンビニー つながりの庭

「やさしい日本語」の研修

2月6日(月)に金沢公会堂多目的室で外国人にわかりやすい「やさしい日本語」の研修を行いました。講師には自治体国際化協会推進アドバイザーの坂内泰子先生に来ていただきました。

横浜金沢国際交流の会では外国人の方にボランティア活動を行っていますが、どのようなことばを使うと外国人の方に理解してもらえるのか、気をつけることはなにかなど学びました。日本人同士で使っている日本語は外国人の方には理解できない時があり、外国人の立場にたって分かりやすい日本語を使う必要があることをあらためて認識しました。



【学んだこと やさしい日本語 ルール】

- ・情報を整理し、短文で表現する。
- ・文末はシンプルに言い切る。曖昧な表現はしない。
- ・敬語、二重否定、使役/受け身文などは外国人には分かりづらい。
- ・制度・習慣などへの共通認識の不足や文化の違いに配慮する。

ラウンジフェスティバル

2023年2月12日(日)第11回金沢ラウンジフェスティバルが、金沢公会堂講堂、および会議室にて開催されました。対面では2019年以来約3年ぶりで、初めての公会堂講堂(ホール)での開催でしたが、幸い好天に恵まれ、約600名の方が来場されました。

まずステージでは子ども学習支援部「かもめ教室」の詩と絵本の朗読、大人の日本語教室から学習者のスピーチ、日本文化の紹介として剣道の実技披露、ミャンマー伝統音楽の演奏と歌・踊り、横浜市立大学の、アカペラコーラス、チアリーディング、横浜高校の和太鼓演奏が行われました。会議室では、ピニャータと剣道の体験、日本と外国のゲームや遊びを行いました。

ステージ発表



市大チアリーダー



オープニング



ミャンマーたいこ と おどり

ふれあいの広場



剣道の体験



“ピニャータ”南米の習慣でお菓子が入ったものを順番でたいて割ります。

【アンケートより】

来場者、出演者共に参加して良かったとの声が多く寄せられ、たくさん笑顔が見られました。これからも、地域の日本人と外国につながる人達が楽しめる企画を考えていきたいと思えます。

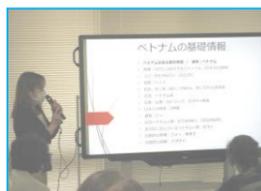
【感想文より】

今回、ベトナムの旧正月“テト”の様子について聞く機会を得ました。ハンさんの丁寧な説明と映像から、お国の人たちの伝統的な暮らしの一端に触れることができました。

かつてベトナム戦争ではたくさんの人たちがその戦禍を被りました。それから50年近く経つ現在のベトナムは、東南アジアにおける急成長の国の一つになりました。“テト”に象徴される暮らしに根付いた伝統や文化からはその国の国民性が感じ取れます。ハンさん手作りのパイナップルはとても優しい味でした。

ベトナムの旧正月“テト”

3月12日(日)金沢公会堂会議室において、ベトナム人の日本語教室学習者ダオ・クエ・ハンさんを講師に迎え講座が開催されました。参加者は38人でした。内容は第1部ベトナムの基本的な情報、第2部テトについて(テトを迎える準備、献立、飾り、新年の行事他)でした。ほかにアオザイ(民族衣装)、ノンラー(編み笠)、バインチュン(ちまき)を展示しました。講座後の質疑応答も盛んで、アンケートでは、次回もアジアの国を取り上げてほしいとのご意見が多数ありました。参加者から感想文もいただきました。



日本語ボランティア入門講座

外国人の方の日本語学習機会を増やすため、1月25日から3月22日までの水曜日に「日本語ボランティア入門講座」を開催しました。(講義9回、教室見学・体験1回)

坂内泰子先生の「日本語ボランティアとは」「日本語の仕組み」「やさしい日本語」では、ボランティアで日本語を教えることの重要性を学びました。

山崎佳子先生の「日本語の基本表現1~6」では、日本語の表現・文型・文法など、外国人に日本語を教えるための基礎知識を学びました。

本講座を修了した20名のみなさんは、4月から次々と日本語教室でボランティア活動を開始します。これから、より多くの外国人の方の日本語学習を支援したいと思えます。



【受講生より】

- ・「日本語ボランティアとは」で外国人の学習者との接し方がわかった。
- ・「日本語の基本表現」は難しかった。資料や説明はわかりやすい。復習して身につけたい。
- ・教室見学・体験で、現場の様子がわかり教えるイメージが湧いた。

日本語部 ブラッシュアップ研修

日本語学習支援ボランティアのスキルアップを図り、支援力の向上を目的として毎年行っています。今年度も12月9日・12月12日の2日間に渡り実施しました。

今回は「いつもの授業に一工夫」というテーマで、教室で使っているテキストを離れ、学習者が発話しやすい環境を作るためのアイデア・工夫を取り入れた研修を行いました。

【参加したボランティアの声】から

- ・トピック、レリア生教材・パンフレット等を活用したいろいろな方法を学ぶことができた。
- ・日常生活、仕事に必要な語彙を増やし、活用することの認識をもった。
- ・日頃の支援活動を振り返りながら、今後の活動に繋げていきたい。等

子ども学習支援部 かもめ教室ボランティア 2回の研修

【教材・教え方のヒント】

1月28日、横浜市教育委員会日本語講師の頼田敦子先生をお招きして、研修会を行いました。日本語支援の対象が子どもと大人とどのように違うのか。大人の場合はすでに母語で概念を形成しており、それを日本語に置き換えることができるが、子どもの場合、概念を日本語で形成していかなくてはならないことが説明されました。日本語と教科と繋げていくことの重要性、それを豊富な教材例を示しながらお話いただきました。

【支援のポイント・地域でできること】

2月18日、横浜市日本語支援アドバイザーの白浜小恵子先生をお迎えして研修会を行いました。事前にかもめ教室を見学していただき、私たちへのアドバイスを兼ねた内容の研修でした。

横浜市では支援が必要とされる子どもたちは右肩上がりで増加をしていること、その子どもたちが困難に直面している具体例を次々と示してくださいました。最後に地域支援教室の重要性を語られ、わたしたちへ励ましの言葉をいただきました。